

地域の生態系を守る

イヌナシは虫媒花^{ちゅうびがいけ}といって、主に昆虫に花粉を運んでもらい、受粉をおこなう花です。自生地内の昆虫もイヌナシを取り巻く生態系の一部であり、昆虫が育つ環境でないといけません。

葛山さん「イヌナシだけを守るのではなくて、イヌナシが生育するこの地域の生態系を維持する努力が

必要です。」

具体的には、実や種や実生を持ち出したり、持ち込んだりしてはいけません。また、『指定地から半径1キロ以内でナシ属の植樹、栽培すること』や『当該天然記念物の集水域を汚したり、水脈を絶つこと』など、イヌナシの保存に悪い影響を及ぼさないように、みなさんにも協力を呼びかけています。

地域の生態系を守るといことは、「生物多様性」を維持することにつながります。「生物多様性」が保たれることによって、私たち人間は自然から多くの恵みを受けることができます。

イヌナシ自生地の生物たち。「モリアオガエルの卵塊」(上)。「オオミスゴケ」(左)。

葛山さんの想い

豊かな自然環境を守るために、まずは身近にある自然との関わり方を見つめ直してほしいという想いが葛山さんにはあります。

保全活動に参加する子どもたちが実生を見つけるとすぐく喜ぶというお話を葛山さんからお聞きしました。

見つけた実生に目印をつけ、自分の名前を書いておくそうです。1年後、どれだけ大きくなったかを見てやってくるそうです。将来に希少なイヌナシが引き継がれていく絆とすることでしょう。

葛山さん「今後は案内板や観察路を整備し、多くの人に観賞と保護を呼びかけたい。」

イヌナシの花が見頃を迎える4月初旬。1年で最も華やかなイヌナシを観察することができます。天然記念物「多度のイヌナシ自生地」を訪ねてみてはいかがでしょうか。

【参考】三重県指定天然記念物「多度のイヌナシ自生地保護計画」
写真提供 桑名市教育委員会



実生の生育状態を観察する葛山さん。実生の生育がどうなっていくか、今後も観察と育成を続けていきます。

主催：三重県環境学習情報センター

天然記念物イヌナシ観察会 ～自生地の保全について～

日時 4月16日(土) 10:00～13:00
(雨天時は室内でお話を聞きます)

集合 多度峡駐車場 10:00集合
講師 石神教親氏 (桑名市教育委員会事務局文化課)
募集人数 18歳以上の方 20名程度 ※先着順

申込み・お問合せ 三重県環境学習情報センター

参加者募集!
参加無料

詳しくは
HPで!

「多度のイヌナシ自生地」についてのお問合せ

桑名市教育委員会事務局文化課 TEL 0594-24-1361